



# 安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

## 目次

- ▶ 全国統一安全就業スローガンが決定しました
- ▶ 令和7年度 重篤事故とその推移について
- ▶ 事故報告（令和8年度 4月分）
- ▶ 安全リレー（公社）佐賀県連合会
- ▶ 草刈り作業安全啓発動画のご案内／編集後記

## NEWS

### 令和8年度～令和10年度 全国統一安全就業スローガンが決定しました！

全シ協では、毎年7月を「シルバー人材センター事業安全・適正就業強化月間」と定め、その取組の一環として、全国統一安全就業スローガンを掲げ、全国の連合及びセンターの皆様へ安全就業意識の啓発に取り組んでいただいております。令和5年度から令和7年度までの3年間は、「安全は 無理せず 焦らず 油断せず」をスローガンとして取り組んできましたが、このたび、令和8年度から令和10年度までの新たなスローガンが決定しました。

安全就業スローガンは3年ごとに選定しており、令和7年12月に各都道府県連合あて通知を発出し、各連合から2作品以内の推薦を募集しました。その結果、全国から計87作品の推薦があり、先般開催された選定委員会において、最優秀作品（全国統一スローガン）及び佳作2作品が選定されました。

令和7年度は、重篤事故件数が過去5年間で最多となり、就業中の重篤事故も大幅に増加するなど、極めて深刻な状況にあります。「自主・自立、共働・共助」を基本理念に掲げるシルバー人材センターにおいて、仲間とともに助け合いながら働く中で、このたびのスローガンにある「仲間同士の声掛け」は、安全対策における重要な安全行動であり、事故防止につながる大切な取組といえます。

新たなスローガンのもと、一人ひとりが安全意識を高め、仲間同士で声を掛け合いながら、事故の未然防止を徹底し、安全・安心な就業環境づくりを推進していきましょう。

## 🌸 最優秀作品

### <全国統一安全就業スローガン>

「声掛けは 仲間を守る いのち綱」

埼玉県 公益社団法人鳩山町シルバー人材センター  
会 員 植木 弘 さんの作品

## 🌸 佳作（2点）

「これくらい 思う過信が 事故のもと」

福井県 公益社団法人南越前町シルバー人材センター  
会 員 山口 多津男 さんの作品

「慣れるほど 初心にかえり 基本から」

鳥取県 公益社団法人鳥取市シルバー人材センター  
会 員 西墻 徳彦 さんの作品



# 令和7年度 重篤事故とその推移について

## 1. 重篤事故の推移

表1のとおり、令和7年度の重篤事故の件数は44件で、前年度より8件増加し、過去5年間で最多となるなど深刻な状況となりました。就業中の事故は35件と前年度の22件から13件の大幅増加となり、安全管理の在り方が強く問われています。就業途上の事故は9件で、前年度より5件減少したものの依然として注意が必要です。

死亡事故は、計28件(就業中23件、就業途上5件)で前年度より2件増加し、特に就業中の死亡事故は8件増と急増しており、極めて憂慮すべき事態です。6ヶ月以上の入院も16件で、前年度から6件増加しています。

依然として植木の剪定、樹木の伐採等における墜落・転落等事故が多く、これ以上の事故発生を防ぐため、安全対策の再徹底が急務です。

表1 (重篤事故=死亡又は6ヵ月以上の入院)

	就業中			就業途上			総件数		
	死亡	入院	小計	死亡	入院	小計	死亡	入院	合計
3年度	20(0)	7(0)	27(0)	6(3)	6(1)	12(4)	26(3)	13(1)	39(4)
4年度	15(4)	4(0)	19(4)	5(2)	5(0)	10(2)	20(6)	9(0)	29(6)
5年度	17(1)	8(0)	25(1)	6(2)	5(4)	11(6)	23(3)	13(4)	36(7)
6年度	15(2)	7(0)	22(2)	11(0)	3(3)	14(3)	26(2)	10(3)	36(5)
7年度	23(1)	12(2)	35(3)	5(2)	4(3)	9(5)	28(3)	16(5)	44(8)

( )の数字は女性で内数

## 2. 令和7年度重篤事故の概要

### (1) 就業中の事故

表2-1のとおり、事故の5割を、「墜落・転落」が占め、特に植木剪定、樹木伐採等における墜落・転落の事故は11件と多く、保護帽、墜落制止用器具を着用していれば重大な結果に至らなかった可能性もあり、確実な着用の徹底が必要です。また、熱中症による死亡事故が2件発生しており、水分・塩分補給、休憩の確保、比較的涼しい午前中や複数人での作業実施など対策を徹底し、熱中症特別警戒アラートを活用した対策の徹底が求められます。

### (2) 就業途上の事故

就業途上の重篤事故は、表2-2のとおり徒歩による事故が半数近くを占め、道路横断中の安全確認不足が最も大きな原因です。従業後の帰宅時の油断や注意力の低下が事故に繋がっている傾向が見られました。今後は、交通ルールの遵守、横断時の安全確認の徹底、悪天候時の注意、帰宅時を含めた気の緩み防止に向けた安全意識の向上が重要です。

# 令和7年度 重篤事故とその推移について

表2-1 令和7年度重篤事故の概要—就業中—

事故の型	事故の内容	事故件数			
		死亡	入院	合計	比率
墜落・転落	植木剪定、樹木伐採等における墜落・転落	7	4	11	
	アパート外階段の清掃作業中、コンクリート床に転落。	1	0	1	
	土手で刈払機を使って草刈作業中にバランスを崩して垂直面を転落。／法面を手刈りで草刈り作業中3mの斜面を滑り、さらに3m下のくぼみに転落。／草刈り作業終了間近、谷川（約3m）に架かる朽ちた板橋付近から転落。／草刈り作業中、作業場所近くの側溝（約4.5m下）へ転落。／除草作業中、腐食したガードレールに寄りかかった際に破損し、約0.5m下の斜面へ頭から転落。	3	2	5	
計		11	6	17	48%
転倒	植木作業中に転倒し、園芸用の支柱（直径8mm×0.75mm）が左眼に刺さり眼球を負傷。庭木剪定作業の為、現場の準備をしていたところ転んで側溝に落ち、首を骨折した。	0	2	2	
	駐車場横階段の両脇斜面を除草作業中に後ろ向きに転倒し、後頭部を打ち出血、その後救急搬送されたが死亡。除草作業中、会員が倒れているのを通行人が発見し搬送。頭蓋骨骨折と脳内血腫を負い、段差を踏み外して転倒した可能性が高い。	1	1(1)	2(1)	
	処分する座車を2人で2階から降ろしていた際、後ろ向きで支える状態から階段の一番下の段で振り返った際に転倒。事務所業務の自転車での公園内の巡視中に、事務所前で転倒し、左側頭部を地面に打ち付け裂傷を負った。屋外管理業務交替のため、管理事務所に移動中躓いて転倒し右大腿骨を骨折。	1	2	3	
計		2	5(1)	7(1)	20%
高温・低温のものとの接触（熱中症）	朝から墓地清掃作業中、2件目の作業をほぼ終えたところで会員が倒れ、救急搬送されたがその後熱中症で死亡。	2	0	2	
	早朝5時から、墓地の除草作業を実施。帰宅後、家族が異変に気づき救急搬送されたが、その後熱中症で死亡。				
計		2	0	2	6%
おぼれ	用水路のわきの草刈作業中、足を滑らせ用水路に転落。深さ約1.5mの用水路を約3.5km流された。	1	0	1	
	3名で伐木作業中、1名が行方不明となり捜索したところ、用水路でうつ伏せの状態で見つかる。死因は溺死。頸椎損傷があり、躓いて水路に転倒した可能性がある。	1	0	1	
計		2	0	2	6%
蜂・犬・蛇等に刺され・噛まれ	林道の除草作業後、約1週間で発熱し受診。マダニ咬傷によるSFTSと診断され入院・ICU治療を受けたが死亡。	1	0	1	
	ツツジ内でのカヤ除去作業中にハチに刺され、応急処置後に作業を再開したが体調が悪化。本人は救急要請を拒否し帰所したが、駐車場の車内で、痙攣状態で発見され、搬送後に死亡。	1	0	1	
計		2	0	2	6%
はさまれ、巻込まれ	公共施設ホールの清掃中、椅子収納時にゴミを取ろうとして格納部に入り、椅子に挟まれた。	0	1(1)	1(1)	
	工場内で段ボールをパッカー車に投入中、プレスプレートに巻き込まれ、搬送後に死亡。	1	0	1	
計		1	1(1)	2(1)	6%
その他	公園での雑木伐採中、伐採木が隣の木の枝に当たり、垂れ下がりが、付近で作業していた会員に枝が約5m落下して頭部に直撃した	1	0	1	
	折り畳み台車を重ねて運搬中、スロープ付近で転倒し頭部を強打。台車が倒れてさらに負傷し、頭蓋骨骨折やくも膜下出血などを発症。治療後、内臓機能低下により死亡。	1	0	1	
	就業後、待機場所の小学校へ戻る途中、青信号で横断中に左折してきた大型貨物車に巻き込まれ、轢かれた。	1(1)	0	1(1)	
計		3(1)	0	3(1)	8%
合計		23(1)	12(2)	35(3)	100%

( ) 内は女性で内数

表2-2 令和7年度重篤事故の概要—就業途上—

交通手段	事故の場所	事故の内容	事故件数			
			死亡	入院	合計	比率
徒歩	交差点	帰宅途中、横断歩道を歩行中、信号のない交差点で直進車に衝突された。	0	1(1)	1(1)	
		道路横断（横断歩道外）の際、車にはねられ意識不明となり入院。	2	1(1)	3(1)	
	道路	帰路途中、青信号で横断歩道を歩行中、前方から来た右折車にはねられる。				
		帰宅途中、歩道を歩いていた際に躓きそのまま後ろ向きに転倒し、後頭部を強打。				
計			2	2(2)	4(2)	45%
自転車	交差点	信号のない交差点で走行中に左側から来た自動車と接触し、頭部・顔面を強打して転倒。	0	1	1	
		道路	ドラッグストア前で走行中に右側から来たオートバイと衝突し転倒した。	2(1)	0	
		帰宅途中、自転車で緩やかな下り坂を走行中にバランスを崩して転倒。				
計			2(1)	1	3(1)	33%
バイク	道路	雨天時、前カゴの荷物が飛び出そうになりそれを左手で抑えた拍子に濡れた路面に滑り転倒。	0	1(1)	1(1)	
計			0	1(1)	1(1)	11%
自動車	道路	帰宅途中、不注意により東から来たワゴン車に衝突事故を起こした。	1(1)	0	1(1)	
計			1(1)	0	1(1)	11%
合計			5(2)	4(3)	9(5)	100%

( ) 内は女性で内数

重篤事故  
死亡又は6ヵ月以上の入院

3件(死亡3件)

1ヶ月以上6ヵ月未満の  
入院及び後遺障害の事故

16件

## 1 重篤事故

4月は3件の重篤事故報告があり、**全て死亡事故**でした。

内訳は、就業中の事故が3件、就業途上の事故が0件となっています。前年度同月と比べ2件の増加、就業中・就業途上別では就業中の事故が2件の増加、就業途上の事故が0件で同数となっています。

<死亡事故>：3件

【就業中の事故】：3件

植木・樹木の剪定作業中の事故：2件 「墜落・転落 (No.1・3)」

除草作業中の事故：1件 「おぼれ」(No.2)

【安全上の課題と今後の対応】

((植木・樹木の剪定作業中の「墜落・転落」事故))

脚立は身近な道具の一つですが、わずか1m程度の高さからの転落でも死亡事故が発生しています。体重60kgの成人男性が1mの脚立から転落した際の運動エネルギーは、2kgのダンベルを約30mの高さのビル(10階建て相当)から落下させた場合と同程度になるそうです。(引用元：『安全衛生かべしんぶん 第1538号』中央労働災害防止協会 編集・発行) 頭から地面に転落した場合、大けがや命に関わる危険につながることは明らかです。「このくらい大丈夫」と過信せず、脚立を使用する際は必ず**保護帽を着用し、脚立の安全点検と正しい使用方法を徹底して、転落事故の防止に努めてください。**

((除草作業中の事故))

思いがけない事故を完全になくすことは困難ですが、「リスクの予測」と「環境の整備」により、事故の発生を減らすことはできます。斜面等の転落の危険がある場所では、**作業前に危険箇所を確認・共有するとともに、転落の危険性が高い場所での作業は行わないでください。**また、**作業者同士が互いの位置を視認できる体制を整え、声掛けを行うなど、単独状態を避ける**ことが事故防止につながります。

### 4月分の発生件数

	令和8年4月 内訳					前年度(令和7年)同月 内訳				
	件数	事故の程度		性別		件数	事故の程度		性別	
		死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性
就業中	3	3	0	3	0	1	1	0	1	0
就業途上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	0	3	0	1	1	0	1	0

### 4月報告分内容

No.	性別等	区分等	事故の状況	保護帽	安全帯	交通手段
1	男性 84歳	就業中 (死亡)	生垣の剪定作業を、三脚脚立を使用して行っていた際、脚立から転落し、後頭部を強打したものと推測される。現場の状況から、 <b>開き止めチェーンが使用されておらず、脚立下にブルーシートが敷かれていたことにより、何らかの作用で脚立が滑って開いた可能性があると考えられる。</b> 脳挫傷、誤嚥性肺炎。	×	×	—
2	男性 76歳	就業中 (死亡)	公園の湖の周囲を6名で草刈中、誤って湖に転落。目撃者がいないため詳細は不明。 <b>現場は高低差約2mの斜面で湖面までは近く、柵はなし。</b>	○	—	—
3	男性 71歳	就業中 (死亡)	庭の剪定作業中、脚立から転落し <b>植木の株で頭部を負傷し、ドクターヘリで搬送。</b> 頭部外傷によるクモ膜下出血他。	○	×	—